

# ツナグ～子供と考える、日本一快適な避難所計画～（6年総合的な学習の時間）

災害って  
何？

避難所運営  
経験者の話

災害図上  
訓練（DIG）

カエル  
キャラバン

避難所運営  
ゲーム（HUG）

1

災害とは何か、被災した人が困ったことはどんなことなのか、避難所運営をした人が困ったことは？など、具体的な知識を1学期の始めに学んだ。その上で、被災者としてできること（DIG、カエルキャラバン）や避難所運営の仕方（HUG）を通してそれぞれの立場でできることを考えた。その経験を通し、防災安全課、社会福祉協議会、日野消防署と共に避難所体験を行った。子供たちは実際に避難所運営をする立場でグループに分かれてその仕事を行った。その上で見えてきた課題を解決する手段を、地域に伝えることで還元し、より良い避難所を作りたいと考えている。

## 起震車・避難所体験

避難者の課題

避難所設営の課題

避難所運営の課題

2

避難所体験を行って上がってきた課題は大きく分けて3つある。  
1つ目は運営上の課題である。誘導者の位置や避難所としての部屋割りが決まっていない、トイレの使い方が悪いなど、事前に計画・準備しておく必要があることが分かった。  
2つ目は設営上の課題である。初動ボックスにトランシーバー等必要なものが不足していた。また設営側のスタッフの割り振りなど、指示系統を作った上で皆で動く必要があることが分かった。  
3つ目は避難者としての課題である。自分勝手な行動、「お客さん」としての行動が見られたが、避難所は避難者皆が協力していく必要がある。

3

防災フェス（2学期）では、  
①避難者としての心構え  
②実際の避難所がどのような所なのか  
③地域の防災担当の方（設営・運営側）に向けた提案を伝える。  
避難所となる学校に一番詳しいのは子供たちである。だからこそ、避難所運営の主体を子供たちにすることで、より快適で安全な避難所を作ることができると思う。

防災  
フェス  
開催

4

## 衣食住から防災を考える

5年農業とツナげて。

家庭科の学習では、生活する上での衣食住の大切さを学ぶ。そこで防災の観点からもう一度衣食住を見直す。避難所体験のアンケートで上がった「毎日同じような食事だとストレスがたまる」という意見から、5年生で行った「日野ベジプロジェクト」を発展させ、日野市の農家や企業とコラボして、本来なら廃棄されてしまう（いわゆるB級品）野菜を使った保存食作りを行う。ネイバーズファームの梅村桂さん協賛で、完成した保存食は来年度の「日野トマトフェス」の目玉として売り出す。6年生の総合のテーマは「ツナグ」。子供たちが地域と繋がる、地域と地域を繋ぐ、「日野ベジプロジェクト」と「防災学習」を繋ぐ、学校と社会を繋ぐ、等様々な意味が込められている。  
「ツナグ」は日野市皆の幸せを願い、日野野菜をブランド化する一翼を担う学習である。